

カワラハンミョウ *Cicindela laetescripta* Motschulsky

【選定理由】

全国的にも生息地が急速に減少している。愛知県においては既知産地では生息情報は途絶えており、すでに絶滅したものと思われ、新産地は発見されていない。

【形態】

体長 14～17mm の大型のハンミョウで上翅の白紋と外縁の白帯は融合する。一般に太平洋側の個体群は日本海側の個体群より黒化する傾向が認められるが、木曾川流域産の個体群は白化する傾向があり、特徴的である。

【分布の概要】

【県内の分布】

愛知県からは渥美半島伊良湖岬（佐藤，1980）、南知多町内海（穂積，1974；佐藤，1980）、名古屋市守山区竜泉寺（佐藤，1980）、名古屋市守山区庄内川（穂積ほか，1975）、愛西市（旧八開村）（安藤，1982）、稲沢市（旧祖父江町）（安藤，1982）、一宮市（旧尾西市）（安藤，1982）にかけての木曾川河川敷から記録されているが、最近の生息情報が全くない。

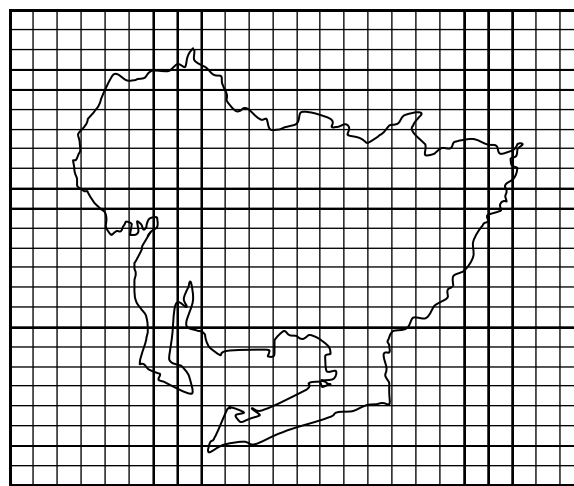
【国内の分布】

北海道、本州、九州、四国の河川敷や海岸の砂浜に分布している。

【世界の分布】

朝鮮半島、濟州島、中国、サハリン、モンゴル、シベリア東部。

県内分布図



【生息地の環境 / 生態的特性】

海岸や河川敷の砂地に局所的に生息し、成虫・幼虫ともに小動物を捕食する。成虫は 8 月中旬に現れる。

【現在の生息状況 / 減少の要因】

木曾川流域では 1990 年代前半から急速に個体数が減少し、1995 年以降は度重なる調査においても発見できないことからすでに絶滅している可能性が高い。渥美半島の海岸線に未知の生息地が見つかる可能性を期待するが、状況はかなり厳しいといわざるを得ない。

減少要因として挙げられるのは、海浜や河川敷の汚染や護岸改修による生息地の破壊、また上流でのダム建設によって流下する砂が減少し、砂浜の面積そのものが減少したり、草地化したりしたこと等が考えられる。さらに近年のアウトドアブームにより河川敷への人の侵入が増えたこと、特に四輪駆動車やサンドバギーなどの砂浜への乗り入れによる生息地の破壊は大きな原因と考えられる。

【保全上の留意点】

木曾川流域の生息地については、生息地への立ち入りや車の乗り入れは慎むべきである。ダム建設による下流、海岸での砂浜の減少は本種だけでなく河川や海浜の生態系に非常に大きな弊害を与えており、長期的には、河川敷の生態系の保全が必要である。

【引用文献】

安藤 尚，1982. 木曾川河原のカワラハンミョウ. 尾張の自然を考える会々報，(6): 1-3.

穂積俊文，1974. 東海甲虫誌(20). 佳香蝶，26 (100): 105-116.

穂積俊文・松井一郎・佐藤正孝，1975. 庄内川の昆虫. 建設省庄内川工事事務所.

佐藤正孝，1980. 環境庁編，日本の重要な昆虫類，東海版: 84-92.

【関連文献】

佐藤正孝ほか，1990. 愛知県の甲虫. 愛知県の昆虫，(上): 200-477. 愛知県.